

鉄骨工事 Q&A	デッキ・スタッド	スタッド溶接の検査	制定	2012年9月1日
			改訂	2019年4月1日

Q. スタッド溶接の打撃曲げ試験は部材が異なるごとに必要か？

A.

工事現場で施工するスタッド溶接の打撃曲げ試験の頻度について標準仕様書の規定は以下となっています。

- ・日本建築学会JASS6  
スタッド100本または主要部材1本または1台に溶接した本数のいずれか少ないほうを1ロットとし、1ロットにつき1本行う。
- ・公共建築工事標準仕様書  
スタッドの種類及びスタッド溶接される部材が異なるごとに、かつ、100本ごと及びその端数について試験ロットを構成し、1ロットにつき1本以上抜き取る。

従って、打撃曲げ試験は基本的には部材が異なるごとに、100本に1本の割合で必要となります。ただし、1本または1台の部材に打たれるスタッドの数が十分に小さい場合には、それらの部材をまとめて1群として取扱い、スタッド100本に1本の割合で打撃曲げ試験を行うことが認められる場合もありますので、このような場合には最終的に工事監理者の承認を得てください。

出典：(一社)日本建築学会\_建築工事標準仕様書 JASS6 鉄骨工事、2018  
公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(平成28年版)